

委員会視察成果報告書

7年 10月 10日

犬山市議会議長

議員名 鈴木伸太郎

下記のとおり、視察の成果を報告いたします。

(1) 視察年月日	7年 10月 7日(火) ～ 7年 10月 8日(水) (1泊 2日)
(2) 視 察 地	岡山県高梁市 兵庫県西宮市
(3) 視察の種類	常任・特別 委員会 (民生文教委員会)
(4) 視 察 成 果 (視察地ごとに記入)	別紙参照
(5) 犬 山 市 に 対する提言	別紙参照



出張報告 令和7年10月7日(火) 岡山県高梁市

テーマ 「公共図書館について」

岡山県中西部、中山間地にある高梁市は、人口25千人、面積550km²。高梁川が貫流し備中松山城のある城下町。財政力指数0.3、住民一人当たりの市負債が1,000千円、かなり厳しい財政運営と思われる。

図書館は、JR 伯備線備中高梁駅に隣接する私有地に、図書館・バスセンター・観光案内所等を併設する複合施設として平成29年2月に開館。武雄市立図書館の指定管理で話題となったCCCをパートナーとして運営、今時はやりのスターバックスコーヒーがあり、若者にも人気。

複合施設は4階建、1階がバスセンター、飲食等テナント、2階～4階が図書館、2階に駅改札、鉄道を跨ぐ東西連絡通路との接合点があり、2階から入館すると、スタバ、観光案内所、蔦屋書店があり、その奥が開架式の図書館。3階4階はすべて図書館という構造。365日開館、開館時間も長い。

駅併設の図書館のコンセプトは「集客施設」としての機能の発揮。たしかに公共施設の中で図書館の集客効果は高く、不特定多数の市民を集めやすい。以前、公共交通についての行政調査でここ高梁市を訪問したが、その時の説明では、備中高梁駅にいかにも市民を繋げるかを課題の一つに挙げられていたことを考えると、その効果は期待できよう。

ただ、公共図書館の本来の目的である、「住民への知の提供」という機能をないがしろにしてはいけないと改めて思った。幸い高梁市の図書館はそのような印象は受けなかったが、今後、犬山市が新図書館を整備するにあたり、単に集客だけを求めないよう注視すべき。

昨今はやりの、コーヒーチェーン併設、ビジュアル的に見せる図書館に特化しては本来の目的を逸脱することになりかねないので注意必要。

CCCが運営をしている図書館、これも全国的に賛否を含め話題になった。個人的には外部への委託や指定管理の活用は賛成だが、選書業務については行政が行うべき。高梁市ではこの業務もCCCが担当、恣意的な選書がされないか懸念する。

館長が市OBであり、意思疎通はスムーズに行われている様子で、選書に関しても当面は心配なさそうだが、時を経て。市職員OBの天下りポストとならないよう要注意。

CCCの特徴として、多彩なイベントが展開されている点。ヨガはさっそく楽田で取り入れたい。

デジタル図書館について伺ったが、やはり苦勞されている様子、というか、県に任せる様子。犬山も愛知県次第だが、そのスタンスで良いと思う。

高梁市は、平成の合併で1市4町がひとつになり、面積は犬山市の約8倍。各支所に図書

室が設けられているそうだが、その詳細まではうかがえなかった。移動図書館も展開、その効果も不明。

鈴木の見解も含めたまとめと、犬山市への提言

- ・集客ばかりの図書館運営ではだめ
- ・市立図書館とはどうあるべきかを議論必要
- ・知的インフラとしての機能維持が大切
- ・とはいえ、第3の居場所としての機能も大切
- ・観光案内所等、市外からの来訪者、お土産売り場は疑問
- ・流行りの小手先だけの賑わいづくりに走ってはダメ
- ・図書館本来の在り方、コンセプトは死守
- ・外部に運営を託すならば、市との連携が大切
- ・従業員の待遇、労働条件は注視
- ・デジタル図書館は難しい
- ・しかし、文化財等のデジタルアーカイブは必要
- ・オープンな雰囲気づくりと併せて、裾野を広げる展開必要
- ・大学との連携を強化
- ・地域図書館の機能強化
- ・イベントと図書とのコラボレーションは効果的
- ・休館日は必要だが、月1日か？
- ・曝書も1日か？

以上

出張報告 令和7年10月8日(火) 兵庫県西宮市

テーマ 「地域型保育事業所整備について」

西宮市は人口490千人、阪神間の主要都市。海側から阪神、JR、阪急の3鉄道路線がある一方、北部には山口、名塩等の山間部も抱える。阪神甲子園球場、日本酒醸造など、メジャーな施設や特産品を有する文教住宅都市。

阪神間(尼崎・西宮・芦屋)は大阪神戸どちらにも便利で、保育ニーズの高まりに併せて「地域型保育事業所」を導入した。

市としては子育て支援の「いの一番」が待機児童解消策だと考えたとのこと。とはいえ、現在も待機児童は70人以上存在している。乳幼児の数は減っているが、保育需要は増えるという傾向がある。これは京阪神間鉄道路線沿線の都市の共通課題のようで、滋賀県大津市も同じ課題を抱えているとのこと。

当初、都市間で転入者を奪い合う、過剰な都市間競争ではないかと考えていたが、そうではなく、ニーズに応える必然でこの政策を導入していることが判った。都市部だけに、まとまった用地が確保しづらい、まとまった保育士を雇用しづらいという固有の事情もあったと思われる。

西宮市の方針として、保育を官から民へ移すとのこと。犬山でも、来年度羽黒に民設の子ども未来園が開園予定であり、その流れは犬山と同じ。平成25年9月議会一般質問で、保育園の官と民の市負担率を聞いた。当時の答弁では、公立では76%が市負担、私立では40%が市負担という答弁だった。当時とは制度も異なっていると思われるが、公立の高負担体制は大きく変わっていないはず。犬山市ももっと民営に舵を切っていいと考える。

西宮市北部中山間地域の保育事情、鉄道路線と比べ取り残されているのでは?と思ったが、北部にも民間の小規模保育施設が存在し、都市部への不公平感は無いとのことであった。

ニーズが高いにもかかわらず、職員不足や職員の高齢化等で閉演する事業所もあるとのこと、労働条件等の整備、勤続年数に応じた特別手当もあるとのこと。

犬山近辺では、小牧がすでに複数の事業所が存在しており、江南市も布袋駅に名古屋鉄道が準備している。犬山もしばらくしたら設置を希望する事業者が現れると思われる。議会として遅滞なく解説されるよう支援していく必要がある。

鈴木の見解も含めたまとめと、犬山市への提言

- ・設置を希望する事業者が現れれば遅滞なく認可すべき
- ・犬山の場合、鉄道路線よりも自家用車で自宅と勤務先との中間が理想的
- ・江南市布袋駅の次に、同じ事業者が展開するとすれば犬山駅と思われる
- ・自動車で送迎できる市南部・西部が適地
- ・小規模でなくても、既存の子ども未来園での対応も検討すべき

- ・羽黒が統合されて民営化となった後、楽田も民営化を望む

以上